

平成30年度 学校自己評価システムシート (大妻嵐山中学校・高等学校)

目指す学校像	○「世界につながる科学する心、表現する力」を育てるGlobal Eco Science School ○建学の精神「学芸を修めて人類のために」貢献できる高い意識と学力を身につけた女性を育成する学校 ○大妻コタカ先生の教育理念に基づいた人格の陶冶をめざす学校	※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。	出席者 第三者評価委員 4名 学校関係者評価委員 2名 事務局(教職員) 10名
重点目標	1 世界につながる科学的素養を育てる 2 世界につながる表現する力を育てる 3 世界につながる心と感性を育てる 4 世界につながる進学力を育てる 5 組織的な広報活動を展開し学校の魅力を伝え、入学者を確保する	達成度	Aほぼ達成 (80%以上) B概ね達成 (60%以上) C変化の兆し (40%以上) D不十分 (40%以下)

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。
 ※ 達成度は、方策の評価指標に対する評価。

学 校 自 己 評 価				学 校 関 係 者 評 価 ・ 第 三 者 評 価					
年 度 目 標		年 度 評 価							
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	実施日 平成31年 3月16日	
				学校関係者評価委員及び第三者評価委員からの意見・要望・評価等					
1 ・ 2 ・ 4	○学校運営戦略に基づき、変化する社会に対応できる生徒を育成する必要がある。 ○生徒が主体的に学ぶ姿勢に変えていく必要がある。 ○生徒一人一人の学力に視点を当て、それを伸ばす教育活動を展開する必要がある。 ○土台となる基礎学力の強化する必要がある。	○学力の向上と授業力の向上 ○世界につながる進学力の向上	○生徒の家庭学習時間を増加させるために予習→授業→復習の学習サイクルを徹底して「負荷のかかった授業」を展開する。 ○英語検定は、中学校卒業時準2級、高校卒業時2級を目標に取得率を上げるよう英語科全体で取り組む。 ○オンライン英会話や言語技術の育成、基礎計算力の育成を系統的に取り組み、科学的素養と表現する力を育成する。 ○アクティブラーニング型授業を全校的に展開する。 ○ICTを積極的に活用した授業を展開する。 ○年間を通じたアクティブラーニング研修を継続し、外部への公開授業・研究協議会年1回実施し、その成果を発信する。 ○授業改善のために管理職による授業観察、保護者等への公開授業を実施する。 ○海外研修、海外留学、海外ボランティア体験、海外修学旅行、留学生受入など国際交流・国際理解の取組を積極的に進める。	○生徒の家庭学習時間が増加したか。 ○英語検定の中学校準2級、高校2級の取得率が上がったか。 ○中学校学力状況調査・高校スタサポの成績が、上がったか。 ○生徒の授業評価が良好だったか。 ○外部への公開授業・研究協議会で授業力があがったか。 ○ICTを活用した授業が全校的に展開できたか。 ○海外留学生、進学者が増加したか。	・学年によって家庭学習時間は、増減がある。「ほとんどやらない」の割合は減少したが、全体量は微増であった。 ・英検の取得率向上のための教員の取り組みは、昨年と比較しても格段に向上した。1次試験前特別講座、2次試験前口頭試験対策個別指導を実施した。 ・英検取得率(別紙)は、向上している。 ・アクティブラーニング研修会を今年度8回実施、11/3に第2回公開授業研究発表会を昨年に引き続き開催した。参加者数は昨年を上回る203名で、受験者や保護者の参加もあった。特に、若手教員をコア教員として指名し、授業力の向上が見られた。 ・ICTは、他校と比べても環境整備が進んでおり、電子黒板やi-PADを授業展開に合わせた活用がなされている。 ・国際交流・国際理解を進め、交換留学に発展させるためインドネシアと英語によるスカイプ交流を始めた。また、スカイプ交流校理事長、校長、担当教員を招き、交換留学提携を推進できた。 ・英語力向上のまとめとして、海外修学旅行(サンフランシスコ)を今年度から実施した。	C A B B A B B	・成績上位者を伸ばすことと成績下位の意欲喚起のため、個別学習の環境を整える取り組みを実施する。 ・英検受験の特別対策が、一定の効果を上げている。この特別講座の規模や人員の強化を図る。 ・アクティブラーニング研修を3年間継続して取り組み成果を得た。これを基礎として新しい研修に取り組む。 ・ポートフォリオの重要性が、入試改革で増している。これに対応するシステムを導入する。 ・スカイプ交流は、本校設備で対応できる国際交流の手段として有効であり、これをさらに進展させる。 ・今年度から実施した海外修学旅行の内容をさらに充実させる。	・進路実績を上げることは生徒一人ひとりの進路保障の観点からもとても重要である。そのため、AO入試や推薦入試など多様な入試をより有効に活用してほしい ・AL授業も教員間の中で定着しつつある。今後は、全ての教員においてさらに質的向上を図るためにも授業力の底上げを目指す取り組みが必要である ・ボリューム層である伸びしろのある中間層をもっと伸ばしていく指導の工夫をお願いしたい。また、生徒の自習力の向上を目指した学習時間をさらに増やす取組をお願いしたい	
3	○大妻コタカ先生の教えに基づいた指導の充実が必要である。 ○自己理解を進め、思いやりやコンピテンシーを育てる必要がある。 ○SNSの指導を徹底させる必要がある。	○大妻コタカ先生の教えに基づいた生徒の自律心、自主性の育成	○生徒に対して大妻精神を徹底し、礼法指導、道徳教育、論語教育を実施する。 ○全教職員による身だしなみ指導、時間厳守指導を日常的に行う。 ○生徒の自主性を育むために新たに週番制度を導入する。 ○教員が生徒の良さを見出し、積極的に褒め、称賛する。 ○育成場面となる行事や体験の機会を増やしていく。 ○本校のメディアポリシーに基づいた指導を徹底する。	○清楚な身だしなみや時間厳守ができていたか。 ○週番制度が定着し、生徒が自主的に活動できたか。 ○ハガキ賞状が、多く出せたか。 ○生徒がメディアポリシーに基づく使用ができたか。	・生徒指導部、生徒会担当を中心に「あいさつ運動」を定期テスト前の期間で実施している。 ・週番制度を見直し、教師主体から生徒の自主的な活動として、運営を変更した。 ・ハガキ賞状は、生徒の活動状況をとらえ、その都度発行している。昨年度より増加した。 ・大妻祭で、スマホやI-PADを実行委員会と生徒会が協力し、メディアポリシーを守るように生徒に呼びかけ、使用できるようにした。	B A B B	・時間厳守のため「5分前行動」を定着させる。 ・週番制度の自主的な運営を定着させる。 ・ほめて伸ばす。自信を持たせる。生徒の活動を今まで以上に見て、ハガキ賞状を発行する。 ・メディアポリシーを遵守している。生徒が大妻嵐山の魅力を発信できるようにする。	・学校のミッションが、しっかり生徒に合っている。 ・ハガキ賞状など生徒の自尊感情を育み、自信につなげる教育を通じて、これからも生徒と教師間での良好な信頼関係を構築してほしい	
4	○希望進路の実現に向かって学ぶ姿勢を身につけさせる必要がある。 ○キャリア意識の育成を系統的、組織的に進める必要がある。 ○大学入試突破力をつけるため教科学力をつける必要がある。	○生徒の主体的な進路意識の醸成 ○教員の進路指導力の向上	○進路・学習指導部が中核となり、各教科、各学年と連携した組織的な進路指導を行う。 ○模試分析、学力分析を徹底し、生徒が自らの力を客観的に把握できるよう指導する。 ○キャリア教育計画を着実に効果的に実施する。 ○大学入学者希望学力評価テストに対する指導方針を着実に実施する。 ○学びPASSテストを実施し、生徒の進路意識を高める。	○キャリア教育の各種行事に参加する生徒が増えたか。 ○第一希望進学率が、前年度より増えたか。 ○進学実績が向上したか。 ・難関大学、医学部2名以上 ・国公立20名以上 ・早慶上理40名以上 ・GMARCH40名以上 ・医療・看護系42名以上	・グローバルリンクスに参加する生徒が増加した。 ・大妻女子大希望者(基準に達している生徒)は、A0と推薦入試で全員合格した。「大妻ゼミ」(全19回実施)の効果が現れた。 ・進学状況(3月31日現在) 歯学部4名、国公立7名、早慶上理1名、GMARCH12名、医療看護系25名、海外大2名	B B C	・進路指導を含めたキャリア教育の行事を用意しているが、進路指導に目が行きがちになる傾向がある。長い目、広い目でキャリア教育を学ぶ姿勢を身につけさせる。	・キャリア教育については、生徒自身が自分のやりたいことを見つけ、取り組むことができるように今後も指導してほしい ・自分自身の人生を長いスパンで考えてモチベーションを上げ、進路を自己決定できるようキャリア教育の質をより一層高めたい ・高1の学年集会で行った「進路実現に向けた準備」はとても興味深いものであった。こうした取組を全体に発信していただきたい	
5	○嵐山町との連携を中心に地域との連携を強化させる必要がある。 ○本校の教育活動を広く知ってもらおう工夫が必要である。 ○地域の中学校・塾との連携を一層深めるために戦略的な工夫を重ねる必要がある。	○全職員による入試広報・生徒募集活動 ○情報発信力の強化	○従来のORキッズ、サイエンスラボの他に地域の小学生対象の取組を工夫する。 ○全教職員が、学校経営戦略に基づいたPRができるようになる。 ○塾・中学校訪問で収集した情報を定期的に分析し、より効果的な生徒募集活動を実施する。 ○学校ホームページ、パンフレットなど発信物の内容を見直す。 ○本校を知ってもらうための情報提供の場を開拓する。	○中学50名以上、高校150名以上の入学者が確保できたか。 ○嵐山町・比企地区・東松山市との連携事業が増えたか。 ○比企地区・東松山市からの入学者が、前年度より増えたか。 ○新たな情報提供の場が開拓できたか。 ○メディア(新聞・テレビ)の取り扱いが増えたか。	・高校生が、英語科教員のサポートを受け、嵐山町の小学生を対象に、英会話教室(オリブ)を3回開催できた。 ・少子化による入学者の減少に対抗するため、群馬県の中小訪問を強化した。中高校長経験者による管理職訪問を比企・入間地区を中心に実施した。 ・フェリーチェ国際小学校と教育提携を結び、英語教育とプログラミングで、相互に協力しあう関係を築いた。さらに、指定校提携を結ぶことができた。(12/17) ・ダンス部が、富田勲氏の作曲のリメイクのPVに出演した。 ・高ソフトテニス部が、関東大会、インターハイに出場し、中バレーボール部が、関東大会に出場し、メディアの扱いが増加した。 ・「はぐくむ」をはじめ、新聞や雑誌に取り上げられる機会が増えた。	C A A B B	・中学は目標の50名以上を達成できたが、高校は達成できなかった。要因分析を行い目標達成を果たす。 ・英会話教室(OREEP)は、高校生が主体的に取り組み、小学生・保護者の評判も良かった。次年度も、規模や内容を充実させて、取り組む。 ・比企・入間地区からの受験生は、増加傾向で、管理職訪問は成果があった。時期や回数など検討し、取り組みを続ける。 ・SNSの利用は、生徒募集効果が期待できる。しかし、諸刃の剣の面もあり、研究を進める。	・少子化の中で、生徒数を確保するのは大変であり、学校からの情報発信としての広報活動と進路実績の向上に今後も力を入れて取り組んでほしい ・地域との連携事業(小学校との交流や国立女性教育会館とのコラボ等)は社会とつながる貴重な機会であり、今後も多様な経験を積める取組をお願いしたい ・生徒募集では、嵐山の魅力を十分に発揮しきれていない。進路実績とともに推薦枠についての説明やSNSの活用など広報活動の幅をさらに広げることも検討していただきたい	